

擬声語・擬態語に関する日本語教材と 日本人の感覚との相違

——アンケート調査による検討——

北村友紀

1. はじめに

新聞・雑誌・日常会話などに擬声語・擬態語は数多く使用され、日本人にとって馴染み深いものであると言える。『擬態語・擬音語分類用法辞典』では「世界の主要言語の中で日本語の擬態・擬音語ほど豊富で重宝な言語表現はないと思う。その象徴的形式による言語は、瞬間的にある情景を感覚的あるいは情緒的に描写し、直感的連想力をもってさまざまな意味を浮かび上がらせる作用があり、一種の言語美を生む力がある。(中略)日本語を母国語としない学習者にとっては奇異なものであり、共感をもって正確に理解し、また自由自在に駆使するのは、至難中の至難と言えよう」とある。日本語学習者にとって、会話の微妙なニュアンスを理解するためには擬声語・擬態語の理解が必要になってくると思うが、日本語の擬声語・擬態語は感覚的・直感的であるため理解しにくく、苦勞することも多いのではないだろうか。

「ぐびぐび」と「ごくごく」や「むかむか」と「いらいら」など、擬声語・擬態語には似た意味ではあるが微妙なニュアンスの違いがあるものが多い。その中で場面に応じた擬声語・擬態語の選択をすることは日本語学習者だけでなく日本語母語話者であっても難しい場合がある。擬声語・擬態語の学習のために日本語教材を利用する人も多いが、日本語母語話者が感覚的・直感的に使用している擬声語・擬態語が教材によって適切に学習できているのか疑問に思った。本稿では日本語教材の回答と日本人の感覚にずれが生じていないかを調査し、明確にしていく。本調査が、日本語学習者のためのより有効な教材となる一助となれば幸いである。

2. 調査方法

擬声語・擬態語に関する類義語の問題を日本語教材『外国人のための日本語 例文・問題シリーズ1 副詞』(以下『例文・問題1』と略記)『外国人のための日本語 例文・問題シリーズ14 擬音語・擬態語』(以下『例文・問題14』と略記)『実践日本語シリーズ ニュアンスがわかる擬声語・擬態語(上級)』(以下『実践日本語』と略記)から抜き出し、その回答と日本人の感覚にずれが生じていないかをアンケートを用いて調査していく。曖昧になっている擬声語・擬態語の類義語の使い分けについても着目する。

3. 先行研究

3-1. オノマトペの定義

田守・ローレンス(1999)は「オノマトペは、もっとも一般的な定義では、現実の音を真

似ている語、あるいは少なくともそのように見なされる語を指す（ぎしぎし、quack等）。しかしながらこの術語は、声を含む音を表す語に対してだけでなく、動作様態（くねくね、zigzag）や、肉体的（ぼつちやり、plump）」あるいは精神的（もさつ、sluggish）な状態を描写する語に対しても用いられることがある」としている。オノマトベのうち前者でいわれている、現実の音などを擬声語といい、後者でいわれている動作様態や肉体的、精神的な状態を描写するものを擬態語という。この擬声語・擬態語に関して金（1999）は「擬音語というのは、人間の笑い声、泣き声、唾を吐いたり、ものを飲んだりする時に発する音、人間以外の生物の発する声や音、また自然界に自然に発する音や、無生物が自然に、または外力を受けて発する音を音声で表現した言葉である」。「擬態語というのは、我々人間を含む生物、無生物、自然界の物事の有様、現象、変化、動き、成長等の状態、様子を描写的、象徴的に音声で表現したものである」としている。

3-2. 音象徴

田守・ローレンスは（1999）は「音声はたまたまそれを含む特定の語の固有の意味とは別の象徴的な意味、すなわち一般に想定されている語と意味の慣習的な関係を越える意味を示唆することがある。これを音象徴（sound symbolism）という。例えば日本語では、サ行やカ行はきつい印象を与えるし、マ行やナ行の音は柔らかい印象になる。」と述べている。

また、豊田（2002）は清音、濁音による擬音語・擬態語の印象の比較を行い、清音には小・軽・弱・鋭・快の印象があり、濁音には大・重・強・鈍・不快の印象が強いことをアンケート調査から見出した。北川（2010）は主に音韻レベルからの音象徴が確認できるかということを手アンケートを用いて調査し、田守・ローレンスや浅野・金田一等の音象徴に関する説の精度を高めた。オノマトベと音象徴には密接な関係があり、オノマトベの選択は音のイメージによって影響を受け変わっていくようである。

4. アンケート回答者内訳

表1. 性別内訳

男	女	合計
151	160	311

表2. 職業別内訳

学生	社会人	合計
165	146	311

表3. 年代別内訳

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
69	120	29	49	28	16	311

表4. 出身地別内訳

山口	広島	福岡	熊本	岡山	長崎	静岡	愛媛	佐賀	大分
110	62	20	19	13	10	10	8	8	6
大阪	鳥根	兵庫	三重	沖縄	宮崎	福井	長野	鳥取	京都
4	4	4	4	2	2	2	2	2	2

徳島	愛知	石川	千葉	新潟	鹿児島	高知	香川	群馬	宮城
2	2	2	1	1	1	1	1	1	1
山梨	青森	埼玉	北海道	合計					
1	1	1	1	311					

今回のアンケートは山口大学の学生を中心に協力を得て集計したものであり、アンケート回答者の出身地は山口県周辺地域に集中している。本調査は日本人の感覚を探ることを目的としているので、調査対象は日本人のみとしている。

5. アンケートの全体集計と考察

アンケートの集計結果をみて、10ポイント以上の差があるものを本稿では差異があるという基準を立てて検討した。以下に示す表の選択数は人数を示し、選択率は、百分率を示す。

設問1. 彼はまるで水のようにブランデーを（ぐびぐび・ごくごく）飲む。

表5. 設問1の集計

選択項目	選択数	選択率
ぐびぐび	128	41.2
ごくごく	183	58.8
差異	55	17.6

設問1は、『実践日本語』から引用している。問題集による解答は「ぐびぐび」である。多数が「ごくごく」を選択し、問題集による解答と異なる結果となった。「ぐびぐび」と「ごくごく」の選択率の差は17.6ポイントである。「ぐびぐび」と「ごくごく」の違いについて『日本語オノマトベ辞典』では以下の

ように述べている。

『「ぐびぐび」も豪快に飲むときにのどが鳴るようすを表したことばだが、多く酒類に限定される。その点、『ごくごく』は、水、ビール、ジュース、牛乳、麦茶など、さまざまな飲料に使われるのが特徴である。』

水か酒類か飲む対象によって「ぐびぐび」と「ごくごく」は使い分けられるようである。「ぐびぐび」と「ごくごく」の選択率の差が17.6ポイントほどしかないことから考えて、飲む対象によるオノマトベの使い分けの認識が薄くなっているのかもしれない。また、設問1において「水のように」という部分に着目した人は水を飲む場合を想定し「ごくごく」を選択し、「ブランデー」に着目した人は酒類に限定される「ぐびぐび」を選択したとも考えられる。

設問2. 好きな本を読みながらウイスキーを（ぐっと・ぐびぐび・ちびちび）やるのが最高だ。

表6. 設問2の集計

選択項目	選択数	選択率
ぐっと	66	21.2
ぐびぐび	22	7.1
ちびちび	223	71.7

設問2は『実践日本語』の「好きな本を読みながらウイスキーを（ぐっと・ごくごく・ぐびぐび）やるのが最高だ。」に手を加えたものである。本調査のアンケートでは、「ごくごく」を削除し、設問の状況により適していると思われる「ちびちび」を選択肢に加えた。問題集による解答は「ぐびぐび」である。多数が「ちびちび」を選択し、問題集による解答と異なる結果となった。ウイスキーとい

うアルコール度数が高いお酒と本を読みながらという時間のかかる状況をふまえて、強い酒を少量ずつなめるように飲む場合に用いられる「ちびちび」が選択されたのであろう。

設問3. 生徒A：あの先生、いつも（もじもじ・めそめそ・むっつり）してて、いやあね。
生徒B：ほんと、ほんと。

表7. 設問3の集計

選択項目	選択数	選択率
もじもじ	138	44.4
めそめそ	43	13.8
むっつり	130	41.8

設問3は『実践日本語』の「生徒A：あの先生、いつも（もじもじ・めそめそ・はきはき・むっつり）してて、いやあね。生徒B：ほんと、ほんと。」に手を加えたものである。アンケートでは設問の状況から「はきはき」を選択項目から外した。問題集による解答は「むっつり」である。「もじもじ」が第一位選択、「むっつり」が第二位選択、「めそめそ」が第三位選択となっており、問題集の解答と異なる結果となった。「もじもじ」と「むっつり」の選択率の差は2.6ポイントであり、ほとんど差が生じていない。設問3の会話文だけでは先生の性格などを読み取ることができないという意見が自由記述欄から得られた。この会話文から適切なオノマトペを選択することは困難であり、根拠のない感覚から選択肢を絞った人が多いのではないかと考えられる。また、「むっつり」の意味について、本来の寡黙である様子ではなく「むっつり助平」の略として「むっつり」を「助平」の意味と捉えている人もいることが自由記述欄から分かった。

設問4. 男：（ドキドキ・モジモジ）心の声 [誘って断られたらどうしよう]
女：何かご用ですか？

表8. 設問4の集計

選択項目	選択数	選択率
ドキドキ	223	71.7
モジモジ	88	28.3
差異	135	43.4

設問4は『実践日本語』の引用である。問題集による解答は「モジモジ」となっている。「ドキドキ」が多く選択され、問題集による解答と異なる結果となった。

『現代擬音語擬態語用法辞典』（以下『用法事典』）では以下のように説明している。

「ドキドキ」… 心臓の鼓動を強く激しく感じる様子を表す。緊張・興奮・不安・期待などを強く感じるという意味で、実際に心臓が強く鼓動しているとは限らない。
「モジモジ」… 主体が、体の違和感・遠慮・気後れなどのため落ち着かず体を小刻みに動かす様子を表す。しばしばするべき行動を起こせない暗示がある。

「モジモジ」は外面に表れる体の動きがもとになっており、「ドキドキ」は外面に表れない心臓の鼓動がもとになっている。設問10は心の声から推察する問題であるので「ドキドキ」が多く選択されたのではないだろう。

設問5. (いちゃいちゃ・べたべた) くっついていないで、少し離れたら？

表9. 設問5の集計

選択項目	選択数	選択率
いちゃいちゃ	49	15.8
べたべた	262	84.2
差 異	213	68.4

設問5は『実践日本語』の「(いちゃいちゃ・でれでれ・べたべた) くっついていないで、少し離れたら？」に手を加えたものである。アンケートでは、設問の状況から「でれでれ」を選択項目から外した。問題集による解答は「べたべた」である。「べたべた」が84.2%と多く選択され、問題

集の解答を支持する結果となった。『用法事典』では以下のように説明している。

「いちゃいちゃ」…男女が体を寄せ合って、性的に親しく話したり、抱き合ったり、キスしたりなど、性的に親しくしているのを第三者の目から見て、不快・羨望などの暗示を伴って述べる。

「べたべた」…人間関係が濃厚で粘着する様子を表し、厄介・煩雑・慨嘆・不快の暗示がある。

「いちゃいちゃ」に比べ「べたべた」の方が不快感が強いようである。豊田(2002)は「濁音は擬音語・擬態語に限らず不快なイメージが強いと言われている。(中略)とりわけ、語頭に現れる濁音が不快なイメージを持ちやすいようである」と濁音と不快のイメージについて述べている。設問5は相手に注意を促す状況であるので、語頭に濁音が入ったより不快感の強い「べたべた」が多く選択されたのではないだろうか。

設問6. 飛行機が水面(ぎりぎり・すれすれ)に飛んで行った

表10. 設問6の集計

選択項目	選択数	選択率
ぎりぎり	69	22.2
すれすれ	242	77.8
差 異	173	55.6

設問6は『実践日本語』の「飛行機が水面(ぎりぎり・すれすれ・らくらく)に飛んでいった」に手を加えたものである。問題集による解答は「すれすれ」である。アンケートでは、設問の状況から「らくらく」を選択項目から外した。

「すれすれ」が77.8%と多く選択され、問題集の解答を支持する結果となった。『用法事典』では以下のように説明している。

「ぎりぎり」…時間・空間・程度などが極限に切迫している様子を表すが、極限の方に視点があり、危惧・切迫感の暗示を伴う。ややマイナスイメージの語。

「すれすれ」…基準点に接触しそうなほど接近している様子を表す。基準点よりは対象のほうに視点があり、対象と基準点の間にはわずかな隙間があるが、危惧の暗示も伴う。

「ぎりぎり」と「すれすれ」の違いは、極限点と対象のどちらに視点を置くかの違いのようである。出題元である『実践日本語』では「ぎりぎりは時間的、すれすれは空間的な場合に使うことが多い」としている。

自由記述欄から『すれすれ』よりも『ぎりぎり』の方が切迫感は強く、次にくる言葉がプラスイメージのものだとしても『ぎりぎり』のほうが重みがあるように感じる」という記述がみられた。

浅野・金田一(1978)は「子音がg、z、b、dのような濁音は鈍いもの、重いもの、大きいもの、汚いものを表し、一方、清音は鋭いもの、軽いもの、小さいもの、美しいものを表す」としている。飛行機が飛んでいくという設問6の状況から重みを感じる濁音の入った「ぎりぎり」よりも、軽いものを表す清音の「すれすれ」が多く選ばれたのではないだろうか。

設問7. うそがばれても(のうのう・ぬけぬけ・しゃあしゃあ)としているようなやつは信用できない。

表11. 設問7の集計

選択項目	選択数	選択率
のうのう	151	48.6
ぬけぬけ	58	18.6
しゃあしゃあ	102	32.8

設問7は『実践日本語』の「うそがばれても(ずかずか・ぬけぬけ・しゃあしゃあ)としているようなやつは信用できない」に手を加えたものである。選択される可能性の低い「ずかずか」を選択項目から削除し、「ぬけぬけ」「しゃあしゃあ」と類義語である「のうのう」を加えた。『実践日本語』の解答は「しゃあしゃあ」である。48.6%で「のうのう」が第一位選択、32.8%で「しゃあしゃあ」が第二位選択、18.6%で「ぬけぬけ」が第三位選択となり、『実践日本語』の解答と異なる結果となった。「『いけしゃあしゃあ』の方が聞き慣れていて『しゃあしゃあ』だけだと違和感があった。」「ぬけぬけ・しゃあしゃあはワンセットのイメージがあります」という自由記述がみられた。「しゃあしゃあ」単独の利用に違和感を覚えた人が多かったことから「しゃあしゃあ」の選択が減ったのではないだろうか。

設問8. 新製品の売れ行きがいいので、社長は(にやにや・ほくほく)して機嫌がいいです。

表12. 設問8の集計

選択項目	選択数	選択率
にやにや	144	46.3
ほくほく	167	53.7
差異	23	7.4

設問8は『例文・問題1』の「新製品の売れ行きがいいので、社長は(くすくす・げらげら・にやにや・ほくほく)して機嫌がいいです」に手を加えたものである。アンケートでは、設問の状況から選択する可能性の低い「くすくす」「げらげら」を選択項目から外した。『例文・問題1』の解答は「ほくほく」である。「にやにや」と「ほくほく」の差が10ポイント以下でありほとんど差が生じていないと言えるが「ほくほく」が第一位選択となっており、問題集の解答を支持する結果となった。『用法事典』では以下のように説明している。

「ほくほく」… 喜びを隠しきれない様子を表す。ややプラスイメージの語。主体が予想していることや、公に表明してもはばからない喜びの場合については用いない。

「にやにや」… 主体が内心の余裕・快感・侮蔑などで連続して笑いをもたらし様子を表し、見る者の不可解・不快などの暗示がある。ややマイナスよりのイメージの語。

「売れ行きがいい」というプラスの事柄から、プラスイメージと結びつきやすい「ほくほく」が多く選択されたと考えられる。

陳(2009)は「『にかにか、にたにた、にやにや、にまにま』などのように子音交替によってできたものは品が落ちる嫌らしい感じを与えるという共通した概念を示している語集団であ

る」と述べている。「にやにや」の嫌らしいマイナスイメージと「ほくほく」のプラスイメージの対立がみられる。社長をどのような人物とみるかによって選択が変わるのではないだろうか。設問8では、社長の性格等の情報がいないためイメージが定まりにくく、ほとんど選択率に差が生じなかったであろう。

設問9. 中でがさがさ音がしている箱を、子供は（こわごわ・どきどき・びくびく）開けようとしていた。

表13. 設問9の集計

選択項目	選択数	選択率
こわごわ	166	53.4
どきどき	58	18.6
びくびく	87	28.0

設問9は『例文・問題1』の「中でがさがさ音がしている箱を、子供は（こわごわ・どきどき・はらはら・びくびく）開けようとしていた。」に手を加えたものである。アンケートでは、設問の状況から選択する可能性の低い「はらはら」を選択項目から外した。問題集の解答は「こわごわ」である。「こわごわ」

が53.4%と多く選択され、『例文・問題1』の解答を支持する結果となった。

『例文・問題1』では以下のように説明している。

「こわごわ」… 怖いと思いつながりながら何かをするようす。

「どきどき」… 強い不安や心配事があって落ち着かないようす。

「びくびく」… 不安や恐怖のために絶えず心が落ち着かないようす。

『日本語オノマトペ辞典』によると「怖いものを見たり触れたりする場合に使う」と「こわごわ」が説明されており、「こわごわ」には動作性との結びつきがあるようである。設問9の箱を開けようとする動作から、何かをするようすを表す「こわごわ」が多く選択されたのではないだろうか。また、自由記述欄から『「どきどき」や「びくびく」は後ろに『と』や『しながら』が付いていないと開けようとしながらにつながりにくいと思います』という意見がみられた。意味だけでなく文としてのつながりの悪さから「どきどき」「びくびく」は単体では選ぶにくかったのではないだろうか。

設問10. 彼は馬鹿にしたようなことを言うので、私は（むかむか・いらいら）して、なぐりたくなった。

表14. 設問10の集計

選択項目	選択人数	選択率
むかむか	117	37.6
いらいら	194	62.4
差異	77	24.8

設問10は『例文・問題1』の「彼は馬鹿にしたようなことを言うので、私は（いらいら・びりびり・ぶすつと・むかむか）して、なぐりたくなった」に手を加えたものである。アンケートでは、設問の状況から選択する可能性の低い「びりびり」「ぶすつと」を選択項目から外した。

『例文・問題1』の解答は「むかむか」である。「いらいら」が62.4%と多く選択され、『例文・問題1』の解答と異なる結果となった。『用法事典』では以下のように説明している。

「むかむか」… 吐き気をもよおすほど怒りを覚える場合で、不快・忌避感の暗示が強い。主体内部の感覚について用い、第三者の様子については用いない。

「いらいら」… 継続して焦燥を感じる様子を表す。マイナスイメージの語。主体が焦燥・不安を感じている様子を表し、程度がはなはだしい場合には怒りの暗示も含む。

「むかむか」は怒りに直接結びつくのに対して「いらいら」と怒りとの結びつきは弱いようである。アンケートの結果から、「いらいら」と怒りの結びつきが現在では強まっていると考えられる。また、自由記述欄において、「『むかむか』は気分が悪い時に使うことが多く、怒りの感情を表す時に使うことはほとんどない」「『むかむか』は死語なのではないか」という意見があった。「むかむか」という言葉自体が耳慣れず「いらいら」を選択したという人や「むかむか」には肉体的な不調のイメージがあり、怒りの表現としては耳慣れないことから「いらいら」を選択した人が多いのではないだろうか。怒りの表現では「むかむかする」と言うよりも「ムカつく」と言う人の方が現在では多いように感じる。

設問11. 思い切り動き回った子供達はきっと満足したのだろう。見るからに（いきいき・のびのび）とした顔をしていた

表15. 設問11の集計

選択項目	選択人数	選択率
いきいき	214	68.8
のびのび	97	31.2
差異	117	37.6

設問11は『例文・問題1』の「思い切り動き回った子供達はきっと満足したのだろう。見るからに（べったり・いきいき・のびのび）とした顔をしていた」に手を加えたものである。アンケートでは「べったり」を選択項目から外した。『例文・問題1』の解答は「いきいき」である。「いきいき」が

68.8%と多く選択され、問題集の解答を支持する結果となった。

『日本語オノマトペ辞典』によると以下のように説明している。

「いきいき」… 人の表情や態度に、心身ともに充実して元気なようすが表れていること。

「のびのび」… 人の気持ちや性格、作風などが、落ち着いて、余裕のあるさま。

「いきいき」は主に顔の表情を表しているのに対して「のびのび」は顔だけでなく身体全体の様子を表している。設問11では「顔」に着目しているので「いきいき」が多く選択されたのであろう。また「いきいき」は状態性があるのに対して「のびのび」は動作性があり、顔の状態を表現するには「のびのび」よりも「いきいき」が適していると考えた人も多いのではないだろうか。

北川（2010）は「うきうき」「けらけら」「わくわく」等のカ行には楽しいイメージがあることを指摘している。「いきいき」にも同様に楽しいイメージがあり、子供たちが動きまわる様子から楽しいイメージと結びつく「いきいき」が選択されやすかったのかもしれない。

設問12. 花子さんの手は（ふんわり・ふっくら）していて、気持ちがいい。

表16. 設問12の集計

選択項目	選択人数	選択率
ふんわり	91	29.3
ふっくら	220	70.7
差異	129	41.4

設問12は『例文・問題14』の「花子さんの手は（ふんわり・ふっくら・およぶよ）していて、気持ちがいい」に手を加えたものである。設問の状況から選択する可能性の低い「およぶよ」を選択項目から外した。問題集による解答は「ふっくら

ら]である。「ふっくら」が70.7%と多く選択され、『例文・問題1』の解答を支持する結果となった。『用法事典』では以下のように説明している。

「ふんわり」… 非常に軽くて柔らかい物がふくらんでいるのを強調する様子を表す。プラスイメージの語。主に触覚と視覚で柔らかさを感じる場合に用いる。「ふわり」の協調形だが、快感・愛情・幸福感の暗示がある。

「ふっくら」… 柔らかくふくらんでいる様子を表す。プラスイメージの語。内部が充実したものが柔らかくふくらんでいる様子を表し、充実・豊富・弾力・快感の暗示がある。

設問12による対象は「手」であることから、「軽さ」と結びつく「ふんわり」よりも「内部が充実したもの」と結びつく「ふっくら」が選ばれたのではないだろうか。自由記述欄から「『ふっくらふんわり』と二つ並べて使う場合もあり、はっきりとした区別がされていないのでは」という意見がみられた。引用元である『例文・問題14』では、「ふんわり」「ふっくら」どちらの説明にも「柔らかくふくらんでいる様子」としか書いておらず、区別がつきにくい。

設問13. 遠くの方に町が見えてきて、闇の中にあかりが（きらきら・びかびか）している。

表17. 設問13の集計

選択項目	選択人数	選択率
きらきら	267	85.9
びかびか	44	14.1
差異	223	71.8

設問13は『例文・問題14』の「遠くの方に町が見えてきて、闇の中にあかりが（てかてか・きらきら・びかびか）している」に手を加えたものである。設問の状況から「てかてか」を選択項目から外した。問題集による解答は「きらきら」である。「きらきら」が85.9%と多く選択され、『例文・問題14』

の解答を支持する結果となった。『用法事典』では以下のように説明している。

「きらきら」：比較的小さい物が断続して光る様子を表し、美とはかなさの暗示が強い。

「びかびか」：主体が比較的大きいか、面が反射する様子を表し、新品・清潔・美の暗示がある。

設問13の状況では闇の中に比較的小さな町の光が多数見えていると想像できることから、「きらきら」が多く選択されたのではないだろうか。また、前田（2013）は「きらきら」が使用される主体について「飾りとしてのイルミネーション、そして星、宝石は、『綺麗』というプラスイメージをもつものとして括ることができるであろう」としている。設問13では、闇の中のあかりを綺麗な夜景としてプラスイメージで捉え、「きらきら」が多く選択されたのだろう。

設問14. 新婦は（のんびり・おっとり）した、おのような性格で、深窓の令嬢というのを絵に描いたような人だ。

表18. 設問14の集計

選択項目	選択人数	選択率
のんびり	42	13.5
おっとり	269	86.5
差異	227	73.0

設問14は『例文・問題14』の「新婦は（のんびり・おっとり・あっさり）した、おのような性格で、深窓の令嬢というのを絵に描いたような人だ」に手を加えたものである。設問の状況から「あっさり」を選択項目から外した。『例文・問題14』の解答は「おっとり」である。「おっとり」が86.5%と多く

選択され、『例文・問題14』の解答を支持する結果となった。『用法事典』では以下のように説明している。

「のんびり」… 心身に余裕があつて、気楽である様子を表す。プラスイメージの語。

「おっとり」… 積極的ではなく細かいことに無頓着な様子を表す。原則としてプラスイメージの語。自分から積極的には行動せず、競争心や警戒心が薄くて細かいことを気にしないですむ環境に育った人（良家の子女）の性質について用いるのが最も基本的な意味である。

設問14では、「おような性格」「深窓の令嬢」という言葉から良家の子女の性質として用いられる「おっとり」が多く選ばれたようだ。

設問15. 音もなく（はらはら・しんしん）と雪が降る。

表19. 設問15の集計

選択項目	選択人数	選択率
はらはら	25	8.0
しんしん	286	92.0
差異	261	84.0

設問15は『例文・問題14』の「音もなく（はらはら・しんしん・ぱらぱら）と雪が降る」に手を加えたものである。設問の状況から「ぱらぱら」を選択項目から外した。『例文・問題14』の解答は「しんしん」である。「しんしん」が92.0%と多く選択され、『例文・問題14』の解答を支持する結果と

なった。『用法事典』では以下のように説明している。

「はらはら」… 非常に軽い物が連続してこぼれ落ちる様子を表す。ややプラスイメージの語。対象を美的に鑑賞するニュアンスがあり、(古典的) 文芸作品の情景描写に多用される。主体自身の状態や感覚としては用いられず、美・はかなさ・鑑賞の暗示がある。

「しんしん」… 音が吸収されて奥深くまで静寂である様子を表す。ややプラスよりのイメージの語。用法は非常に限定されていて、ふつう雪が降る場合や夜が更ける場合について用いられる。深遠の暗示がある。

設問15では「雪が降る」という状況から雪との結びつきが強い「しんしん」が多く選択されたと考えられる。自由記述欄において、昼か夜か、また雪の量で選択が変わってくるという意見がみられた。北川（2010）は調査の結果からサ行における「静かな」というイメージはかなり固定している音象徴であることを指摘している。音もなく降り積もっていく様子から、雪が多いと「しんしん」を使い、夜に降る雪に夜がふけるイメージとつながる「しんしん」が使われると考えた人もいたようだ。

設問16. いつも（にたにた・げらげら）笑っていて、感じが悪いこと、このうえない。

表20. 設問16の集計

選択項目	選択数	選択率
にたにた	188	60.5
げらげら	123	39.5
差異	65	21.0

設問16は『例文・問題14』の「いつも（にたにた・にこにこ・げらげら）笑っていて、感じが悪いこと、このうえない」に手を加えたものである。設問の状況から「にこにこ」を選択項目から外した。『例文・問題14』の解答は「にたにた」で

ある。「にたにた」が60.5%と多く選択され、『例文・問題14』の解答を支持する結果となった。『用法事典』では以下のように説明している。

「にたにた」… 主体があまり好ましくない意図で満足・快感などを感じ、連続して笑う様子を表し、しばしば悪意の暗示がある。

『日本語オノマトペ辞典』では以下のように説明している

「げらげら」… 大声で笑う声。遠慮なしにばかにした笑い声。またそのさま。

「感じが悪い」というマイナスイメージから「悪意の暗示」がある「にたにた」が多数選択されたのであろう。「にたにた」と「げらげら」では「にたにた」の方がマイナスのイメージが強いようである。引用元である『例文・問題14』では「げらげら」の説明に「大きな声で笑う様子」と書いてあるだけで、マイナスイメージについての説明がない。「げらげら」の持つイメージには個人差があるのかもしれない。濁音により不快のイメージがある「げらげら」よりも「にたにた」の方が多く選択されたのは想定外であった。また、「げらげら」は笑い方の一種であるのに対して「にたにた」は表情の一種である印象が強いことから選択率に差が生じたのかもしれない。

設問17. 毎日雨ばかり続いてもう（げんなり・うんざり）だ。

表21. 設問17の集計

選択項目	選択数	選択率
げんなり	38	12.2
うんざり	273	87.8
差 異	235	75.6

設問17は『例文・問題14』「毎日雨ばかり続いてもう（しょんぼり・げんなり・うんざり）だ。」に手を加えたものである。設問の状況から「しょんぼり」を選択項目から外した。『例文・問題14』の解答は「うんざり」である。「うんざり」が87.8%と多く選択され、問題集の解答を支持する結果となった。

『用法事典』では以下のように説明している。

「げんなり」… 対象を熟知していて前途の困難が予想されるため、気力がなえている様子を表し、無気力・倦怠・不快の暗示を伴う。「げんなり」は「うんざり」に似ているが「うんざり」は前途に希望を見出せないために不快を感じている様子を表し、不快・苦痛・忌避感の暗示を伴う。

「うんざり」… 対象が何度も繰り返されて熟知していたり、前途に困難や苦痛が予想されたりするために、前途に希望を見いだせず不快・苦痛を感じる暗示がある。この不快感はかなり強いので、忌避感の暗示も伴う。

設問17では、「毎日」という言葉から、対象が何度も繰り返されているために不快に感じる場合に用いられる「うんざり」が多く選ばれたようである。

6. まとめ

日本語教材『例文・問題1』『例文・問題14』『実践日本語』を基に抜き出した全17問の擬声語・擬態語に関する類義語の問題のうち、設問の1、2、3、4、7、10の6問が問題集の解答と異なる結果となった。問題集の解答を9割以上選択したのは、設問15のみである。約8割以上に選択されているものを入れると、設問5、13、14、15、17の5問が問題集の解答を支持

していると言える。

擬音語・擬態語だけでなく、より自然な日本人に近い感覚を身に着けるためには日本語教材に掲載される問題は多くの日本人に支持されるものが望ましいと思われる。

日本語の擬声語・擬態語は感覚的・直感的であるため外国人学習者には理解しにくく、習得するのに苦勞するため、問題集にはより一層の妥当性と正確さが求められるであろう。今回取り扱った問題集は1990年前後に作成されたものであり、問題集の解答と20代以下の感覚には誤差が生じてしまっている。擬声語・擬態語は感覚的・直感的であるため移り変わりの早さも比較的早いのではないだろうか。移り変わりの早さを考えると擬声語・擬態語の教材は10年ごとに作りかえられるのが理想であるのかもしれない。

【参考文献】

浅野鶴子・金田一春彦（1978）『擬音語・擬態語辞典』角川書店

小野正弘（2007）『日本語オノマトベ辞典』小学館

茅野直子・秋元美晴・真田一司（1992）『外国人のための日本語 例文・問題シリーズ1 副詞』
荒竹出版

北川（2010）「擬音語・擬態語の『音』に対する印象 ―音象徴の妥当性をめぐって―」『現代日本語文化論』第2号

須藤増雄（1951）「擬語と普通語：特に普通語の擬語化について」『研究紀要』一卷

陳士昌（2009）「有關日中兩國語之擬聲語、擬態語音韻組織的探討（オノマトベの音韻形態に関する日中両言語の特徴）」

豊田和子(2002)「清音、濁音による擬音語・擬態語の印象の比較」『山口支部研究紀要』第8号

飛田良文・浅田秀子（2002）『現代擬音語擬態語用法辞典』東京堂出版

日向 茂男・日比谷 潤子（1989）『外国人のための日本語 例文・問題シリーズ14 擬音語擬態語』
荒竹出版

前田千菜美（2013）「光を表す擬態語の使い分け」『現代日本語文化論』第5号

増田アヤ子（1993）『実践日本語シリーズ ニュアンスがわかる擬声語・擬態語（上級）』専門
教育出版

（きたむら・ゆき）

日本語に関するアンケート

あなたが適当だと思う方を一つ選んで○を付けてください。

1. 彼はまるで水のようにブランデーを（ぐびぐび・ごくごく）飲む。
2. 好きな本を読みながらウイスキーを（ぐっと・ぐびぐび・ちびちび）やるのが最高だ。
3. 生徒A：あの先生、いつも（もじもじ・めそめそ・むっつり）してて、いやあね。
生徒B：ほんと、ほんと。
4. 男：（ドキドキ・モジモジ） 心の声 [誘って断られたらどうしよう]
女：何かご用ですか？
5. （いちゃいちゃ・べたべた）くっついてないで、少し離れたら？
6. 飛行機が水面（ぎりぎり・すれすれ）に飛んでいった。
7. うそがばれても（のうのう・ぬけぬけ・しゃあしゃあ）としているようなやつは信用できない。
8. 新製品の売れ行きがいいので、社長は（にやにや・ほくほく）して機嫌がいいです。
9. 中ではがさがさ音がしている箱を、子供は（こわごわ・どきどき・びくびく）開けようとしていた。
10. 彼は馬鹿にしたようなことを言うので、私は（むかむか・いらいら）して、なぐりたくなかった。
11. 思い切り動き回った子供達はきっと満足したのだらう。
見るからに（いきいき・のびのび）とした顔をしていた。
12. 花子さんの手は（ふんわり・ふっくら）していて、気持ちがいい。
13. 遠くの方に町が見えてきて、闇の中にあかりが（きらきら・びかびか）している。
14. 新婦は（のんびり・おっとり）した、おのような性格で、深窓の令嬢というのを絵に描いたような人だ。
15. 音もなく（はらはら・しんしん）と雪が降る。
16. いつも（にたにた・げらげら）笑っていて、感じが悪いこと、このうえない。
17. 毎日雨ばかり続いてもう（げんなり・うんざり）だ。

その他、不適切な例文と思われるものやご意見などがありましたらお書きください。

国籍（ ） 性別（男・女） 出身地（ ） 都道府県
年齢（10代・20代・30代・40代50代・60代以上） 職業（学生・社会人）

ご協力ありがとうございました。